

## 5 中学校英語の授業改善のポイント

### 中学校 聞くこと

問題 [1 (1)] [1 (2)] [1 (3)] [1 (4)]  
[2] [3] [4]

#### 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ること

[1 (1)] (府の正答率91.0%、全国の正答率91.1%)

▲日常的な話題について、情報を正確に聞き取ること

[1 (3)] (府の正答率71.0%、全国の正答率72.3%)

[1 (4)] (府の正答率58.9%、全国の正答率61.8%)

▲まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解すること

[2] (府の正答率68.6%、全国の正答率71.8%)

▲聞いて把握した内容について、適切に応じること

[4] (府の正答率6.2%、全国の正答率7.6%)

#### 解説

- ・「聞くこと」の領域では、全国平均を全て下回っています。特にまとまりのある文章を聞き取って概要を理解することや情報を正確に聞き取ることにより課題が見られます。
- ・また、[4]のように、把握した内容について適切に応じるような複合問題にも課題があります。無解答率も42.9%（全国の無解答率42.3%）と半数近い生徒が答えられていません。
- ・聞いたことがそのまま答えになるような問題だけでなく、例えば前置詞に着目して聞かせる等、聞き取りのためのポイントを示して概要を聞かせることが重要です。
- ・更に、聞くだけにとどめず、把握した内容について適切に応じる活動を積み重ねていく必要があります。

#### 授業改善のポイント

◎ただ聞いて理解するだけの活動にせず、聞く目的、場面、状況設定を工夫し、更にその場面においてどのような応答がふさわしいのか考えさせ、内容を踏まえて自分の考えや意見を表現させる活動を行う。またそれらの活動を日頃から生徒とのやり取りをする中で、実際に聞いて応じる活動を積み重ね、考える場面を作る。

◎ある程度まとまりのある英語を、年間を通して継続して聞かせる工夫をする。その際、普段の授業を自然な英語の使用場面に近づけていく。その際、教科書本文をどのような形で生徒に出会わせるかを考え、キーワードに着目させたり、5W1Hに着目したりして聞く活動を継続していく。

◎事実や出来事など、必要な情報を正確に聞き取らせる補助として、話の内容を示す絵や写真を順番に並べさせるなど生徒の理解を生徒自身も確かめながら「聞くこと」の指導をする。

◎教師が自然な口調の英語を用いて話すなど、日常的に生徒と英語でのやり取りをしていく。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

○日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること

〔5(1)〕(府の正答率80.3%、全国の正答率79.4%)

○まとまりのある文章を読んで、話のあらすじを理解すること

〔6〕(府の正答率63.4%、全国の正答率62.9%)

▲まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解すること

〔7〕(府の正答率32.7%、全国の正答率32.8%)

▲書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などをとらえること

〔8〕(府の正答率11.6%、全国の正答率10.9%)

### 解説

- ・成果として、簡単な日常的な話題について、情報やあらすじを読み取ることできています。
- ・しかし、まとまりのある文章を読んで、書き手が最も伝えたいことなど大切な部分や概要を捉えること、読んだ後に自分の考えを示すなど、話の内容や書き手の意見などを主体的に捉えることに課題があります。
- ・特に、読む目的に応じて要点を把握し、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域間の総合的な言語活動を工夫する必要があります。

## 授業改善のポイント

◎読みやすい部分を手掛かりにしながら、読みづらい部分についても推測して読み進めていく力を付ける。文章全体を通して段落相互の関係を読み取り、あらすじや概要を捉える練習をするために、教科書だけでなく他の題材を数多く読ませ、初見の英語に触れさせるようにする。その際、文章全体や段落毎にタイトルをつける活動や話の内容を数文でまとめる活動、文章の順番を並び替える活動を取り入れる。

◎全体のおおまかな内容を捉え、段落毎の最も大切な部分を抜き出し、それについてペアやグループで意見交換する活動を行い、最終的には自分の意見として書いてまとめる活動をさせる。

◎ただ読むだけではなく、複数の情報の中から、書き手が最も伝えたいことは何であるかを考えさせる。

◎主体的に内容を読み取るために、賛否や感想、自分の考えなどを話したり書いたりして表現する活動を用意する。

## 全国学力・学習状況調査から見られた成果(○)と課題(▲)

- ▲文の中で適切に接続詞を用いること
  - 〔9（1）①〕（府の正答率80.5%、全国の正答率79.9%）
  - 〔9（1）②〕（府の正答率57.2%、全国の正答率58.2%）
- 一般動詞の2人称単数現在時制の疑問文を正確に書くこと
  - 〔9（2）①〕（府の正答率75.2%、全国の正答率73.6%）
- 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くこと
  - 〔9（2）②〕（府の正答率31.8%、全国の正答率28.9%）
- 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くこと
  - 〔9（3）①〕（府の正答率57.1%、全国の正答率53.5%）
- ▲与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと
  - 〔10〕（府の正答率1.7%、全国の正答率1.8%）

### 解説

- ・全国の正答率と比べると全体的に上回っています。文法事項にも留意して、書くこととする意欲がある傾向が一定見られます。
- ・しかし、正確さに関しては、全国の正答率は上回っているものの〔9（3）①〕のように難易度が上がると正答率が下がります。
- ・また、〔10〕のように、与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりに注意してまとまりのある文章を書くことについては正答率は2%を切っており、日々の授業改善が求められます。

### 授業改善のポイント

- ◎コミュニケーションの目的や場面、状況のある言語活動において、個別の知識を活用させて文を書かせることを授業に位置付ける。また、単に書かせるだけの活動に留まらず、間違いについて生徒自身に考えさせ、正しく文を書くことができるような指導を繰り返す。
- ◎ただ書くのではなく、与えられたテーマについて自分の考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書く指導をすることが必要である。また、語や文法事項等を正しく理解して書き表すことができるよう書く練習をする。その際、「自分の主張→主張を支える根拠や具体例」という構成で書くなど文章形式を判断して書く言語活動を行うことも必要である。
- ◎「ペアでやり取りして話したことを書く」「読んだ文章について感想や意見を書く」「聞いたことについて、自分の考えや意見を交えて書く」など、領域を統合した授業を展開する。
- ◎メモを活用しながら、初めは文単位から徐々にまとまりのある文章が書けるように、構成の特徴を意識し、接続詞や副詞などに注目して書くように促す。
- ◎調べたことについて説明や報告をしたり、絵や写真の様子を表現したりする言語活動を通して、3人称を用いて客観的に事実を伝える力を養う。

### 授業改善のポイント

#### 【情報や考えなどを即興で伝え合う指導の充実】

- ◎場面設定を行い、生徒が「話したい、聞きたい」と思うトピックの設定を工夫する。
- ◎準備時間を設けず、即興で伝え合う場面を計画的、意図的に設定する。その際、教師自身がまずは自分自身のことを話し、会話を継続、発展させる方法を駆使し、会話を続けるストラテジーを用いて、生徒にモデルを示す。
- ◎既習の教科書を用いて、本文中の会話の中のストラテジーに気付かせたり、それらを生徒に意識的に使用することができるよう促す。

#### 【生徒が自分の思いや考えを伝え合うやり取りのある授業の実施】

- ◎授業をコミュニケーションの場とし、生徒が自分の思いや考えを伝え合えるような活動を工夫し、教師がそのやり取りのモデルとなるよう率先して英語を使う。
- ◎やり取りの中で見られた発音や表現の誤りについては、その場で確認し、その間違いに気づき、訂正できるようにシェアする。また、既習表現をうまく自分の表現につなげている、コミュニケーションストラテジーを駆使してやり取りを続けている、等の良い例にも目を向け、シェアしていく。
- ◎ある程度まとまりのある英文を話すような課題を意図的に行い、その過程の中で全体の文章構成を考えたり、一度発表した内容を構成面から振り返らせたりする活動も行う。